

地域懇談会実施報告書

自治会名	曽根原自治会
開催日	11月21日(水)
時間	19:00~21:00
開催場所	曽根原農業生活改善センター
参加人数	20名
懇談内容	別添 議事録

質問等後日回答を要するもの

保護者が中心となっている大町東小学校のドッチボールチームについて、県外の大会に参加しようとした際、教育委員会と学校から中止するよう要請された。保護者が計画し、資金も出すものであるのに、なぜそのような要請になったのか。

対応

教育委員会、大町東小学校に確認し、なぜそのような要請になったか文書で回答。



行政参加者 氏名

庶務課長 酒井富雄

社公民館 小林 悠

記録者 小林 悠

曽根原地域懇談会議事録

1. 開会 【19:00】

2. 自治会長あいさつ

例年社全域で行っていたが、今年からこのような形となった。お忙しい中市長に出席いただき感謝する。質問や提案を出していただきたい。

3. 市長あいさつ

(1) 地域懇談会について

昨年までは市政懇談会ということで、公民館で団体の代表や自治会長を中心に実施されていたが、市民の皆さんの声が届きづらいのではということで、このような各自治会で行う形となった。今年6月からはじめて、今日で26回目、自治会が99あるうち43番目である。今までは様々な課題を、行政の積み重ねてきた経験やノウハウで解決してきた。しかし少子高齢化や人口減少など、今までに経験したことのない社会となった。また様々な要望や高度な要望がでてきた。市民の皆さんのご意見を伺い、市の考え方を説明して、市民の皆さんと行政が協働によって、良い成果が生まれるのではないかと考えた。

また、国・県ともに行政の財政状況が厳しいことや、地方と都市部との格差、個人の所得の格差が出る時代となってきた。今までなら財政力で市民の課題を解決できたことが難しくなったことから、市民の皆さんに優先順位をつけていただいたり、できることをお手伝いしていただいたりしながら進めていきたい。

(2) 第4次総合計画のダイジェスト版からの説明。

4. 懇談 【開始19:15】

出席者

私は直接関係していないが、地域の子どもは地域で育てる考えから、2年前から東小学校で地域の人達を中心となって、指導者となり、子ども達がドッジボールチームを作っている。中信大会でもいい成績も残した。初めて県外の大会へ遠征をしようとしたら、ある人から中止するよう言われ、そのうえ教育委員会や学校に働きかけたようで、市長は知っているかは解らないが、そちらから中止するように要請された。そのような一部の人の意見で活動を制限するのはいかなものなのか。現在学校からも規約を作るよういわれているが、2年前に作ったときには保護者が責任を持ってやるなら良いといわれた。計画も保護者が立て、資金も自分達で出しているのになぜだろうと思った。バスの手配などもしていたが中止とした。市や学校が絡むのであれば、資金を出すなどしてほしい。

市長

中信大会の成績は大系タイムスで見したが、県外の大会に行くということは知らなかった。またそれに対して、私から考え方を指示するなどはしていない。学校や教育委員会で調べて、なぜそうなったのか整理して回答する。保護者の皆さんが「何でだろう、どうして。」と思うことは、理由を

きちんと説明責任をはたしていかなければいけないと思う。また、子供たちが学校の活動以外に参加していくことは良いことだと思う。様々な機会を活用すべきであり、他の種目でも全国大会に出場して、子ども達にいい経験となっている。何も理由もなくダメだと言うなら良くないので、なぜダメだったのかを調べて、自治会長さんを通じて回答する。

出席者

大町病院について、内科の医師が減ると聞いている。病院に行っても空いているし、安心してかかれない。全国的にも問題になっている産科も不安であり、安心して子供が産めない環境になっている。どのように考えているか。

市長

内科医で11月、12月末に一人ずつ他の病院に異動してしまう。内科は5人の常勤医師のうち2人が異動となってしまう、引き止める努力とともに、後任を探している。入院の65床を3人の医師で診るのは不可能なので、退院しても補充せず、順次30床としていく。外来も入院まで必要ではない方は開業医へ、必要であれば安曇病院へ紹介していく。これは1~3月の期間で、4月には信州大学から派遣をしてもらいたいと思っている。ただ信大も医師の研修制度が変わり、医師が大都市部に集中してしまっている。来年80人の卒業生のうち40人しか信大に残らないので、必ずしも派遣されるとはいえない。

そのほかにも大北地区出身の医師に手紙を書いているが、それぞれの勤務の病院で立場もあり容易ではない。

一昨日、大町病院の医師と意見交換をして、市では給料を上げることは難しいが、県もやっている、赴任していただければ研究費用を300万円貸し出し、3年勤務すると返さなくてもよいという制度の検討していることを話した。現在勤務している医師と差が出るとの反対意見があるかと想像していたが、現在勤務している医師からはもっと条件をよくして、早く医師を補充してほしいと言われた。経験を積んだ専門医の医師には600万円にする案を議会に出している。

また全県的に見て、産科や小児科は医師不足であり、安心してお産、子育てをすることが難しくなっている。幸い大町病院には2名の産科医師がいて、夜間も対応していただいているが、早め早めに対応していく。医師が不足している理由として、女性の医師が多く、結婚や出産で職場を離れてしまうことや、医療事故が起きた時に医師を責める傾向にあることから、リスクの少ない科にいつてしまう。中長期的な計画を立てて行きたい。

出席者

里山整備について。このごろ雨が降るとすぐに水が出てしまい、復旧しても、次に雨が降るとまた出てしまうというたちごっこである。里山整備が大切であるが、大町市はどんな整備をしているのか。木を使って家具を作る仕事をしているが、20年前はナラの木は県内で手に入ったが、今は北海道からでもなかなか良い物が入ってこない状態で、輸入材になっている。しかし世界的にも森林が厳しい状態で、ゆくゆくは輸入が難しくなっていくだろう。50年、100年後には、国内の森林が昔のように採算が合う木材になっていくのではないか。昔は40、50年後に売れるようにみんな植えて整備したが、そのころのように整備していくようにならないか。

市長

大北地域は、広葉樹の比率が県下で一番高い。家具などに使う広葉樹を扱う材木屋が少ない中で、森林を活用していく方策もあると思う。森林の役割は二酸化炭素を吸って温暖化防止になることや、水を蓄える保水の機能がある。昭和 20 年代まではどこの家でも山から薪を切り出していたので山に価値があったが、現在は他のものに代替されてしまい価値が下がり、山に入らなくなってしまった。その影響で鳥獣と人が住むところとの境がなくなり、山から出てきてしまうようになった。昨年常盤の清水、長畑では集落全体で負担金を出し合って間伐を行った。今年は市でも補助金を出して、範囲を広げて平二ツ屋の方まで行っている。県では来年から森林税の導入を検討している。長野県中で遅れている森林整備を集中的に実施していくが、その時市でも予算を出し行っていく。50 年、100 年先を見据えて、木を育て活用していくことが大切である。

出席者

東洋紡の跡地の生垣がなくなって見えるようになり、広いことが一目で判ったが、若い人が働いて、住んで、子育てができるようにして欲しい。現在どのようになっているか。

市長

広大な土地は東洋紡の所有で、東洋紡と大町市で協力をして、新しい企業を誘致するなど活用していくことになっている。今年、東洋紡の跡地だけの PR パンフレットを新たに作り、大町市にふさわしい企業に来ていただき、また来ていただいた企業も大町市を好きになってほしいと思っている。また優遇措置として大町市工場誘致条例で最大 3 億円の補助事業をしている。3 週間前に東京に行き、大きな銀行の支店長会議でプレゼンテーションをして、融資や投資の情報をもらえるようお願いし、次の日には何社かの企業を回ってお願いしたりしてきた。他の県にもお願いして、情報があればすぐにももらえるようにしている。しかし、努力はしているが、形になっていない。

企業に最初に聞かれるのは、高速道路からどのくらいの時間がかかるかということ。現在、大町市は高速まで 30 分かかってしまい、企業では高速道路から 15 分くらいの近い場所を希望している。松糸高規格道路を県で進めており、道路は企業誘致、観光、生活基盤に必要であり、市も整備促進に取り組んでいる。

出席者

大町市には神社仏閣がたくさんあり、平地観光として仁科神明宮を中心に観光を進めてほしい。旧八坂村とも合併し、八坂地区の観光ともつなげていけばいいが、八坂地区への道路は現在松崎からしかない。曾根原のあたりから大峰に通じる観光道路があればと思う。もう少し観光に力を入れてほしい。

市長

今年の夏に行った市民アンケートで大町市がどういうまちをめざしていくか聞いたところ、観光、産業、自然、ゆっくり休める、健康、保養をというものが多かった。観光に予算は使っているが、宣伝などに使っていて、基盤である道路整備までは回っていない。道路整備は起債に頼らなければならない、財政的に難しい。現在年間 280 万人の観光客が来て、そのうち 100 万人以上が山

岳観光である。しかし今はいろいろな観光の形があり、昨年、社の民俗資料館に歩いて来た人に館長が聞いた話では、沓掛駅から仁科神明宮をまわり、民俗資料館から大町駅までというコースだったという。大型バスで乗り付けるだけではなくなっている。

仁科神明宮への道は地権者の問題もあるが、できるところからやっている。ナビでも判らないようなところには、来てくれないと思うので整備を進めていく。

出席者

白馬村の飯森に予定しているゴミ焼却施設には、大町市はどのように関係しているのか。

市長

ゴミ焼却施設の建設を大町市、白馬村、小谷村の広域で協力して進めている。池田町と松川村は安曇野市の施設へ持ち込んでいる。現在の大町市の施設は平成22年に、白馬村の施設は平成29年にそれぞれ耐用年数を迎えるので、小谷村を加えて、平成16年度から3市村で共同して建設することを検討してきた。昨年、ゴミ処理検討委員会で建設候補地を飯森地区に選定した。地元から反対が出ており、その理由としては、有害物質が出るのではないかと、活断層があるのではないかと、1ヶ所にしてから発表するのは密室主義で、決定する過程が分りづらいというもの。有害物質は高い基準で管理するので問題がなく、活断層については耐震性の施設にするほか予備調査を行うこと、また1ヶ所にして発表したのは、県内の他の地区で複数発表したら、結局全地区から反対が出たことなどや、それまでの広報活動に関心を持ってもらえず、飯森地区に決定してから関心を持つようになったこともある。白馬村内10ヶ所で説明会を開催してきた。市内では現在市の施設のある山下地区の皆さんに来週説明に行くこととしている。

出席者

現在の農業に魅力がなく、子供たちに勤めながら農業をやりなさいとはいえない状態。市では後継者や新規に就農する人などに対してどう考えているか。

市長

国が、農家の規模拡大と集落営農の推進を進めてきている。市内でも昨年から8ヶ所で集落営農を行なっている。しかし、今年米価が極めて低い状態になってしまい、せっかく集約してもペイできなくなってしまった。全国から反発が出て、国も見直しを迫られている。今までは会社に勤めながら、土日に農業をやっていたが、それには手の一番かからない米作をしてきた。しかし、これからは品目を増やしていくことも地域で考えていかなければならない。昨年まで勤務していた伊那地方では、米のほかに野菜や花などを5年くらいかけて導入した。大町市でもりんごの品種を、フジから気候が適して高い評価のシナノゴールドに切り替えて、高く売れるようになってきている。なんとか多彩な農業を展開していき、米だけの収入に頼らないことが必要である。大切なのは農地を荒らさないようにしていくことであり、農協とも連携していきたい。

出席者

大町地区の国営アルプスあずみの公園入口付近にある、畜産施設は臭気の問題があったがどうなったのか。

市長

その業者と地区、公園、市が話し合い、移転という話も含め検討したが難しかった。臭いが出ない工夫として、EM 菌や、施設を覆うことの研究や、木を植えて施設自体を見えなくするなど対策をしている。清水地区の懇談会でも以前より臭わないといわれた。いつも臭うわけではなく、風向きや作業をすると臭うが、致命的というわけではない。

出席者

料理教室で平公民館によく行くが、冬は通うのが大変であるので、生涯学習施設を南部にも作ってほしい。また、冬の間には体操の講座などをしてほしい。

市長

どこの公民館でも様々な生涯学習講座を設けている。ただ、施設によっては不得意なものもあり、社公民館は調理室が少し狭いかもしれない。社公民館でも仲間がいればできるので活用してほしい。

先ほどの里山整備の話であるが、この東山も県が治山事業に取り組むかもしれない。また話があるかもしれないがお願いしたい。

出席者

高齢化に伴いマレットゴルフをする人が増えてきた。昨日も社地区全体の大会を初めて開いた。社南部の宮本、曾根原、閨田には自治会のものが、また山下には市のマレットゴルフ場がある。松崎、館之内にはなく、自治会だけでは大変だろうから市で補助してマレットゴルフ場を造ってほしい。それと松崎は老人クラブが休部しており衰退していつている。行政から指導していただきたい。

市長

今年高根町の有志が、市のきらり輝くまちづくり事業補助金を使い、地域の皆さんでマレットゴルフ場を造った。マレットゴルフ場への補助金制度はないが、地域の皆さんのやる気に市で補助していききたい。マレットゴルフは市民スポーツ祭でも出場者数が一番多く、今年は全国大会も開かれた。そんな中、老人クラブの人数が減っている。様々な事情によりそのようになっていると思うが、大切な活動であるので折をみて話をしていきたい。

出席者

大町市は民生児童委員が、障害者から一人暮らし老人や子供までを、地区一人でカバーするため負担が大きい。他の市町村では福祉委員を設けているところもある。市にも再三お願いしているが、福祉委員の予算を都合できないか。

市長

民生児童委員は厚生労働大臣の任命で行っているが、福祉委員については、社会福祉協議会と検討していく。

出席者

20代、30代の若者が地域にいない。働く場所がなく、自分の子供にも帰ってくるように言えない。働く場所の確保をしてほしい。

市長

大学卒業時に地元の良い就職先がないと帰ってこない。都会に就職し、結婚や家ができてしまえば、帰ってくるのは難しい。市内にもきり輝く技術を持っている企業もあり、10月15日号の広報おおまちからそのような企業を2社ずつ紹介している。父兄など関心のある方に見ていただき、子供に紹介していただければと思う。より多彩な企業を大町市に誘致したいと思う。

自治会長

忙しい中時間を割いていただきありがとうございます。市民として努力していきたい。

市長

市の抱える問題は多くなっている。市役所に任せるだけにせず、市政に関心を持っていただき、ご提案やご意見をこれからもいただきたい。

5. 閉会 【20:30】